
梅雨の真っ最中。6月末には38度を超える猛暑日があったり、大地震以来、なんだか社会の底が抜け、政治や経済だけでなく天気もおかしくなっているのかもしれない。7月1日からはサマータイムが導入される職場もです。また、関東東北では15%の節電が義務化されるなど、変化が激しい日々です。とはいえ、学校や教育はどんな時代でも不変でありたいものです。そんななか、今月も、ネットワークの活動の現在と今後の取り組みを報告します。

◆ 目次

【1】最近活動報告

1. 東京部会報告
2. 経済教育ワークショップ「札幌」

【2】イベントカレンダー

これからの予定をまとめて掲載します

2011年度の夏休み経済教室の準備状況などを報告します

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

1) 東京部会が開催されました。

39回の東京部会が、6月23日(木)に日本大学経済学部で開催されました。参加者11人でした。

篠原代表からは、北海道でのワークショップの計画やネットワークの組織づくり、福井でのワークショップの企画が報告されました。

新井及び東証の石山さんから、夏の経済教室の準備状況、入試プロジェクトなどの状況が報告されました。また、名古屋地区の研究会との連携と11月以降のワークショップの支援が決まりました。

夏の教室関係では、はじめて扱う地歴関係の入試問題の資料や、北海道豊富高校(筑波大学派遣中)の山崎先生が調査された高校の現場で教える際に理解しにくい事項などが報告されました。

実践報告では、桜修館中等の高橋先生が実践された便乗値上げをテーマとした道徳と公民の授業が紹介され、議論が行われました。高橋先生の授業は、経済と倫理をどう考えさせるかという興味深いもので、7月にも東京都の公民研究会で授業公開されるとのことで、結果が注目されます。次回は7月14日。地歴の内容の研究など、

夏の教室をテーマに開催します。

内容の概略は、以下のネットワークの HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo039report.pdf>

2) 経済教育ワークショップ「札幌」

6月25日(土)に札幌市立啓明中学校を会場に、経済教育ワークショップ「札幌」が、27名の参加者で開催されました。

北海道でのワークショップは今年二回目で、内容は、中学公民の教科書を読み解く(野間)、参加型授業教材提案(篠原)、関西ネタ研での実践成果と課題(奥田)、参加者全員での教材づくりの準備作業などが行われました。

冒頭主催者の札幌開成高校の川瀬先生から、今回のワークショップは8月の前哨戦「ステップ」の位置づけであるとの趣旨説明があり、野間先生の中学教科書を読み解いた内容豊富な講義、篠原代表から「企業シミュレーションゲーム」の紹介、奥田先生からの明日でも使える元気のでる授業提案、最後の地元教材を使った授業案づくりの準備など、現場の実践に密着した有意義なワークショップとなりました。

次回の札幌でのワークショップは8月6日が予定されています。当日の内容概略および8月の内容予定は、以下のネットワークの HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/20110625WS%20Sappro.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

これからの主な予定を掲載します。

■東京部会 (No.40)を開催します。

日時：7月14日(木) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部、会場は未定

内容：夏のセミナーの内容検討、特に歴史と経済に関する内容の検討など

参加方法などは、ネットワークの以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo040flyer.pdf>

■あす大阪部会 (No.24)を開催します。

日時：7月2日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

参加方法などは、以下のネットワーク HP をご覧ください。当日参加も歓迎いたします。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka024flyer.pdf>

■夏休み経済教室の東京教室（中学、高校向け）の申し込みを受付中です。

第四回目となる、東京証券取引所と共催の「夏休み経済教室」を受付中です。

すでに何回か案内済みですが、名古屋が8月1・2日で会場は「ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）」、福岡が8月4・5日で会場は「福岡交通センター」、大阪8月は8・9日で会場は「天満研修センター」です。東京中学は8月18・19日、東京高校は8月22・23日で会場は中学高校とも、日本大学経済学部7号館です。

中高の教科書を読み解く（中川、野間、加藤の各先生担当）や大学入試問題解説（西村先生担当）の他、地歴の先生方向けの講義（篠原代表担当）、東京高校の「入試問題プロジェクト」の総括が予定されています。

大阪と東京高校での大竹文雄先生（大阪大学）、東京中学での林敏彦先生（同志社大学）、東京高校での飯田泰之先生（駒澤大学）、同じく東京高校での大田弘子先生（政策大学院大学）の講演も予定されています。

各地の中学高校には案内のちらしが6月上旬に関係地域の全学校に発送され、受付が始まっています。今年初めての福岡、名古屋などは出足好調です。東京関係は、会場が変更されたこともあってか、やや出足が遅れているようですが、お知り合いの先生方にも一声かけていただければと思います。各会場ともまだ余裕があります。特に、今年は地歴（歴史）関係の先生方にも参加いただき、経済教育の重要性を理解していただければと考えています。

内容の詳細などは、ネットワークHPにも掲載してありますのでご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

【 3 】 授業のヒント

地元ネタというのがあります。

先日、札幌のワークショップで実践を発表された、奥田修一郎先生の「回転寿司」ネタがそれです。回転寿司はどこにでもありますが、奥田先生の学校の地元には「くら寿司」の本店（発祥の地）があるのだそうです。そこに突撃取材をして、回転寿司の成功の秘密や競争の実際を素材にして生徒にぶつけるという授業を実践中のことでした。生徒は、地元にあるお店が、全国展開中の企業であることと、回転寿司という身近な事例であることもあり、興味をもって授業にのぞんでいるとのことでした。

このような地元ネタ、地理や歴史の授業では結構あるのですが、経済の授業ではそれほど開発されているとは言いがたい現状でしょう。例えば、愛知のトヨタ、茨城の日立など企業城下町では企業の動向がそのまま地域経済に影響をもって、すぐ教材になりそうです。でも、今回の東日本大震災で明らかになったように、見えないところにも重要企業が地元にあるケースが探せば結構あるのではと思います。

先生方も、広く世界を見るとともに、足元を掘ってみると、すごい宝が掘り出されるかもしれません。

ちなみに、私が住んでいる武蔵野地区では、旧中島飛行機が地元ネタになります。この会社、戦前はゼロ戦や隼を作っていた軍事産業ですが、戦後はその技術者がプリンス自動車（現在の日産）、富士重工とわかれて日本の自動車産業をになっていった歴史があります。だから、歴史ネタでもあるのですが、中島知久平という創業者のアントレプレナー精神やその後の一族の悲劇、戦後の日本の製造業をささえた人脈など、現在に通じるネタが沢山あります。三鷹にある国際基督教大学（ICU）の本館は、戦中に建てられた中島の研究所の建物を今でも使っているだとか、地元ネタは豊富です。

【 4 】 編集後記（みみずのたはこと）

6月は学会とワークショップで松山と札幌にでかけました。松山は会場が愛媛大学、札幌は会場は中学校だったのですが、翌日北大に足を延ばしました。

大学を歩いて、伝統や規模の違いが大きいなという感想ですが、両方の大学に博物館があり、それぞれ展示を公開していたのが印象的でした。特に、北大では旧理学部の本館が総合博物館になっていて、建物探索だけでも興味深いものがありました。かつては、大学は象牙の塔ということで外部の人間には距離がありましたが、一般向けに無料で大学が持っている財産を公開してくれることは有難いことです。

ちなみに、北大では博物館の前で映画の撮影をしていて、大学紛争当時のヘルメット姿の学生さん役の役者がいました。でも、当時を知っている人間にとっては、何か違和感のあるスタイルでした。何が違うか考えたら、ヘルメットの形が当時の大学生とはちがっていました。そんなことがわかるのは年齢だからですね。これは余分な話です。

北大の博物館では、北海道開拓の中の札幌農学校の歴史が興味深く、また、知里真志保さん（アイヌ語の研究者）の資料など北大ならではのものがありました。どちらの大学も博物館の運営がはじまったばかりのようで、これからの充実が期待されます。（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇